



先日、ヘルシンキ市の案内で地下シェルターを視察しました。

まず、緊急事態時に約 6000 人を収容できるという巨大な施設が、この街の地下深くに設けられている事に驚きました。

その大部分は、普段は市民の駐車場、スポーツ施設や子供の遊技場などとして利用されているそうで、売店、サウナ、マッサージ施設もありました。

市の担当の方からは、

... フィンランドでは一定の大きさの建物の建造には地下シェルター設置が義務付けられている、

... ヘルシンキには約 5500 もの地下シェルターがあり、約 90 万人収容可能、

... 全て市民は非常事態時に自分がどこのシェルターに行くべきかを知っている、

... そこで 72 時間を過ごす想定、

... その間の自分の水や食糧を自分で持ち込むこと、

などとの説明を受けました。

こうした地下シェルターは、もともとは何十年も前に、隣の某大国から言われて建造、設置が始められたのだそうです。それが今日、その某国の脅威から市民を守るのに役立つかも知れない、と言うのは歴史の皮肉に思われます。

私から、万が一の時、地下シェルターにはフィンランド人だけではなく日本人も入ることが出来るかと確認を求めたのに対して、もちろんである、住民であれ旅行者であれ国籍で区別することはない、との回答を頂きました。

もちろん、そうした万が一の事態が起きないのが何よりなのは、言うまでもありません。

2022 年 8 月

駐フィンランド大使 藤村和広